

バタンバンでの戦闘は激しく、同僚が次々と死んでいく中、ネスさんはなんとか生き残っていた。戦闘に参加して4ヶ月目、隣にいた友人の手榴弾が暴発し、その友人は死に、ネスさんも大怪我をして、軍の病院へ入院してしまう。その病院へ祖母からの書類が届き、ようやく軍の任務から解放された。

入学式から半年ほど過ぎていたが、高校へ入学することができ、高校在学中も自転車タクシー、パンやお菓子売りをして生活費や学費を稼いでいた。また、仕事や高校の勉強の合間を縫って、独学で英語の勉強もしていた。成績が優秀だったネスさんは無事に高校も卒業。進学を選択することもできたが、学費や生活状況を考えて断念することになる。

それからは高校のときから続けていたタクシーとふとん工場での仕事で家族の生活を支えていたが、給料は安く、苦しい生活が続いていた。2年ほどタクシーとふとん工場の掛け持ちをしていたが、カンボジアーナホテルの警備員へと転職することになる。月給は21ドルだった。

大変な暮らしの中でも、英語の勉強は続けており、その努力が実って、カンボジアーナホテルのレストランマネージャーが英語の上手なネスさんをレストランのホール係として引き抜いた。月給は35ドルに上がった。

1990年、内戦の続いていたカンボジアを国連の機関 UNTAC が統治することになる。そして新しい政府を作るために国連の職員がたくさん入ってきて英語のできるカンボジア人が必要となり、ネスさんは通訳として働くことになった。月給は300ドルだった。

その後、新しい政府の議員を選ぶための選挙が無事行われ、国連はカンボジアから引き上げていった。ネスさんの仕事も終わり、英語の先生、英語の家庭教師、ピザレストランでのホール係を掛け持ちして働いていた。

お金持ちの友人がピザレストランを開くことになり、ネスさんはそこでのマネージャーとして働くことになったが、友人が他のスタッフより給料の高いネスさんの給料を安くして辞めさせようと嫌がらせをしてきた。しばらくは我慢をしていたネスさんだが、その店によく来ていた友人たちに相談して、そのうちの3人と新しくピザレストランを開くことにする。

経営は順調だったが、またカンボジアで内戦が起こり、カンボジアから外国人がいなくなり、レストランの経営も悪化してしまう。プノンペン市内での戦闘が激しくなり、シェムリアップでレストランをやることにするが、状況は変わらなかった。2ヶ月で内戦は終わったが、ネスさんと友人のピザレストランは閉店することになる。

内戦が終わりプノンペン市内に戻ったネスさんは、ニューヨーク・タイムズで働く友人を訪ね、そこで働く。

そこでの給料を貯め、98年に現在のヴェイヨ・トンレをオープンする。しかし、そのころのカンボジアは政府が未熟であったため、情勢が不安定で、外国からこの国を訪れる人は少なく、経営は苦しかった。ネスさんはレストランの経営を親戚に任せ、英語の先生などをしながら家族の生活を賄っていた。2000年になると国の情勢も落ち着いてきて、レストランにもお客が入るようになり、経営も安定してきた。

2002年にタヴィーさんと結婚。

レストランの経営は順調で、このときまでに貯金は随分と蓄えられていた。結婚してからはそのお金の使い途について毎日のように夫婦で相談していた。当時のカンボジアは長く続いた内戦のため、孤児が多く、子供のころ苦勞をしたネスさんは一人でもそんな子供を減らしたいという思いで、孤児院を作ることを考えるようになった。

そして、2004年11月11日 NCCLA 孤児院を設立。

初めは7人の子供でのスタートだった。その後、経済状態に余裕があったので徐々に子供の数を増やしていった。

子供たちはネスさんの方針で学校に通う傍ら、英語や日本語、パソコンの勉強、そしてカンボジアの伝統舞踊であるアプサラダンスも練習している。

またネスさんは、今でもレストランの売り上げが多いときにはその売り上げを貯金し、そのお金で貧しい田舎の地域の子供たちに文房具などを届ける活動をしている。

これからもカンボジアの子供たちのために、このような活動を続けていきたいというネスさん。今日も素敵な笑顔で出迎えてくれる。